

県P通信

令和8年度 第1号



第74回
日本PTA全国研究大会

奈良大会

建国の地 大和からの発信 コンヴィヴィアリティな「わ」
～挑戦するなら今シカない～

令和8年8月21日・22日の両日、天理市をメイン会場に、8つの分科会場に分かれて開催され、長野県からはPTA会員57名が参加しました。日本PTA全国研究大会は、全国のPTA関係者が一堂に会し、各地域の活動事例や実践を共有しながら、これからのPTA活動について学び、考える場です。参加者同士の交流を深め、社会教育・家庭教育・PTA活動の充実を図るとともに、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えていくことを目指しています。今回は、各分科会・全体会に参加した皆さんから寄せられたレポートをご紹介します。それぞれの会場で得られた学びや気づきを、ぜひご覧ください。



【第1分科会】

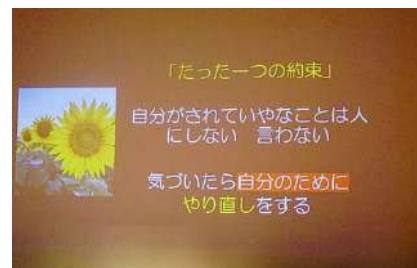
家庭教育

Happyな毎日が子供の未来を開く

～親も子供も、笑顔で心が軽くなる学び～

「不登校0」二度見したくなるような言葉が飛び込んできました。大阪市大空小学校の校長先生を務めた、木村泰子さんの講演です。関西弁のノリからすぐに興味を惹かれました。率直な感想は、やりたいことに「そんなの無理」って決めちゃいけないなってこと。子どものことも、もちろん自分のことも。だれもがつかずくと人のせいにしたくなるものです。うまくいかない、学校のせい。先生のせい。子どものせい。自分たちは親として完璧ではありません。子育てをしていくなかで、子どものおかげで親として成長していると感じます。さらに学ぶため、このような講演に手を伸ばし参加することで不安を減らし親として成長できると思います。今回とても貴重な講演と出会えました。子どものサポーター（保護者）として、親として学ぶこと「推し活」を継続し我が子を、推して、推しながら共に人生を楽しみたいと思います。

（飯田下伊那PTA連合会：清水一夫）



【第2分科会】

学校教育

楽しみながら考える力で豊かな学びを実現するには

～ “湧く湧く” の好奇心が学びを変える～

「楽しむなんてしばらく忘れていたな…」正直、分科会に参加してこんな気持ちになるとは考えてもいませんでした。上田信行先生の基調講演では、「楽しみながら考え、豊かに学ぶ」をテーマに、実際に参加者が身体を動かしたり、歌ったりする体験をしました。その中で、身体感覚を使い、感じていることや学ぶことをアウトプットすることが大事だということを身をもって経験することが出来ました。子どもの学びの前に、大人たちこそが日常において、「楽しむ」ということを忘れているのでは、ということを感じた次第です。

私たちは日頃、仕事や家事などで忙しく、常に社会の中で「成果」や「効率性」を求められています。それゆえ、実験精神や失敗しても大丈夫という感覚を忘れがちです。ですが、何をするにも根底には「楽しむ」という感覚が大事です。私たち大人こそが、子どもと一緒に学ぶ中で、または社会生活を送る中で、そのことを意識していくことがこの社会全体が活力に溢れたものになるためには重要なのだと強く感じています。

(上高井郡市PTA連合会：堀内龍真)



【第3分科会】

人権教育

ネット社会を生き抜くために、「禁止」よりも「共育」の視点を

～子供の権利とネット社会の“環”を考える～

インターネットの普及により見たいものが見られ、知りたいものが知れる便利な世の中になりました。今の子供たちはそれが当たり前になっています。しかし今回の講演でその当たり前が、子供たちに様々な問題を引き起こしていることを知りました。SNSを使った闇バイト勧誘、AIを使ったフェイクニュース、掲示板などの誹謗中傷。親が知らない間に子供たちは巻きこまれ被害者、加害者になっているのです。でも、だからといってネットはダメ、SNSはダメという話ではありません。子供にも人権があります。子供がやりたいことを尊重し、寄り添い認めてあげる事で間違った選択をさせない。子供を理解し安心感を与えてあげることが大事だと。一人の親として改めて考えさせられる会となりました。

(東筑摩塩尻PTA連合会：白井亮一)

【第4分科会】

地域連携

PTAって、けっこうすごい。未来創造作戦会議

～家庭・学校・地域の本気の『輪』で、子供が本当に走り出す～

第4分科会「地域連携」に参加し、基調講演としてマイスター高等学院の高橋さんのお話を
お聞きしました。子どもたちの未来を支えるためには、学校や家庭だけでなく、地域社会全体
で子どもを受け入れ、育てていくことが重要だと学びました。特に、子どもたちを変えようと
するだけではなく、まず大人が変わり、その姿を子どもたちに見せることが教育につながる
という言葉が印象に残りました。また、パネルディスカッションの「未来創造作戦会議」では、他県のPTA関係者
の方々と意見交換もさせていただきました。「自分のことができてから地域に関わる」のではなく、自分の未来と
地域・社会の未来を同時につくっていくという考え方に強く共感しました。今回の分科会を通して、地域の
一員として、子どもたちとともに未来をつくっていくPTA
でありたいと感じました。

(木曽郡PTA連合会：丸山悠介)



【第5分科会】

今日的課題

みんなで育てる心の元気

～ちょっと話そや！分かち合えば気持ちは軽くなる～

「子育てのしやすい安全で安心なまち・自他ともに敬愛できる人の育成」を目指すコンパクトなまちでの分科会です。「子どもの自己肯定感の低下や不安が広がる今だから『話』が大切」と、心の健康や人の尊厳にかかわり様々な提言がなされました。提言者の運送会社の経営者が「交通安全は相手の命を大切に思うこと。それはすなわち、私が従業員の命を大切にすることだ」と語った感動的な講演会。これらに触れて、ある子育てに悩む参会者が堰を切ったように「親にされてうれしかったことをする・親にされて嫌なことはしない・親にしてほしかったことをする・それと同じことを自分自身にもする」と、自らと子どもの尊厳を保つ決意を告白、呼応して臨床心理士の提言者が、いじめなど人を大切にしない事象は「拒否・否定・命令による自己肯定感＝尊厳の低下」が引き起こすと指摘し、大人が大切にされる実感も子育てには不可欠という結びに参会者が深く共感しました。

(全佐久PTA連合会：依田俊一)



【第6分科会】

広報活動（防災）

こどもまんなか防災の“和” ～心の和・身体の和・つながりの輪～

テーマは「こどもまんなか防災」。講師の国崎信江さんは、熊本市の被災地支援から前日に来られ、翌日にはまた熊本市まで支援に行かれるという環境の中で基調講演を務めてくださいました。

国崎さんからは、当たり前のように学んできた防災のあり方への問い直しがされました。例えば、地震の揺れが起こったらすぐに机の下に隠れる。学校で教えられ何の疑いもなく行ってきましたが、実際に大きな揺れの中で机の下に隠れようとすると、ちょうど目の高さに机が当たってしまい大怪我をしてしまうことも。であれば、上から机にしがみつくなど状況に応じた対応を考え訓練をしておく必要があるとし、家庭でも学校でも「いのちをまもる」ための防災のアップデートをしてくださいと強く訴えておられました。

実践発表では石川県PTA連合会前会長の宇田さんが、令和6年能登半島地震の際のPTA組織のつながりの意味や重要性について共有してくださり、全国の仲間たちの励ましと支えによって子ども達や学校が守られたことを発表してくださいました。

分科会会場では防災関連のグッズや体験コーナーも設けられ、子ども達も一緒に楽しみながら学び合える分科会となりました。



（長野県PTA連合会：城村義人）

【特別第1分科会】

P T Aのあり方

「PTAって、今も必要？」

～“倭”の心から考える、これからのP T A～

「PTAって、今も必要？」という問いを通して、これからのPTAのあり方について考える機会となりました。講演の中で特に印象に残ったのは、PTAは子どもの声の代弁者であるという考え方です。子どもたちは、自分の思いや希望を持っていても、それを大人に伝えたり、環境を変えたりすることが難しい場合があります。だからこそ、私たち大人が子どもの声に耳を傾け、その思いや願いを学校や地域、行政につないでいくことが大切だと感じました。また、PTAは単に学校を支援する組織ではなく、家庭・学校・地域をつなぎ、子どもたちの



成長を支える役割を担っていることも学びました。「共育・共創・共感」のつながりを大切にしながら、子どもを中心に考え、「PTAがあってよかった」と思ってもらえる活動を目指していくことが重要だと感じました。今回の学びを、今後のPTA活動に生かしていきたいと思います。

（長野市PTA連合会：峯村篤）

【特別第2分科会】

地域社会共創

学校を地域社会の学びと支え合いの拠点に

～世界に羽ばたく子供を育てるために 地域の一員としてPTAができること～

奈良県天理市では急激な少子化を背景に学校統廃合をせずに小学校に公民館などの機能を持たせ、地域コミュニティの場を提供できる取り組み「みんなの学校プロジェクト」を推進している。この取り組みを通じて子どもと高齢者などの幅広い多世代交流ができるようになり、子どもたちも自然に高齢者の事を気遣える関係性が新たに生まれた。また、教員の負担となっている保護者からの過度な相談には、子育て応援相談センター「ほっとステーション」を開設し専門家が参画して子どもと保護者に寄り添った相談業務を行っている。そのうえで教員の離職防止と教員が安心して子どもに向き合える教育現場環境作りを推進している。子ども・保護者・地域を「学校」を軸に繋げ「こどもまんなか」の視点で取り組みを実施しており大変素晴らしい取り組みだなと感じた。

また、文部科学省行政説明では、WHOの健康定義は身体的・対人的・社会的に健康と定義付けされている。日本は世界的に見ても幸福度は中くらいの位置。学校以外での学びの充実や子どもから大人まで学校だけでなく多様な学びを提供する事が必要で、学校には様々な施設があり学校施設を有効活用して新たなコミュニティが生まれる。これからのPTAは単に学校との意思疎通や支援だけでなく、学びの場として地域と共に繋がっていく事が大切であると改めて感じた。

(松本市PTA連合会：大久保秀樹)

【全体会・記念講演】

日本の心をつなぐ「和の力」家庭・学校・地域の共鳴について

日本の心を伝える会代表【倭塾】主催の小名木善行さんの講演がありました。日本人の物事の見方について古事記や源氏物語など古典の文章を引用しながら『自分の見方だけを世界の中心に置かない。相手の立場でも見るというのが日本の文化』と説明がありました。私たちが学んでいた社会科はただ覚えるだけの暗記科目であり、歴史科は、出来事について、事実を基に物事の因果関係を明らかにする。思考力・洞察力・理解力を養い、未知の出来事に対応する力を育成するということでした。

【日本は「関係性」の文化の国】

よろこびあふれる楽しい家庭 よろこびあふれる楽しい会社 よろこびあふれる楽しい未来
お互いの関係性をよくしていこうとするのが日本の考え方など、日々を生きるヒントを古典から披露されました。学校・地域・家庭との繋がりを大切にし、これからの未来に対応できる力を養っていきたいと思いました。歓迎アトラクションでは、天理大学雅楽部の皆さんによる公演がありました。世界へも発信されているそうです。雅楽の響きにはとても感動いたしました。

(更埴PTA連合会：竹内みゆき)



全国の仲間と学び、交流した3泊4日

令和7年度 日本PTA全国協議会

国内研修事業 in 東京



国立オリンピック記念青少年総合センター

公益社団法人日本PTA全国協議会が実施する「国内研修事業」は、全国の中学2年生を対象に、集団宿泊や体験活動を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を深め、社会や自然、国際社会への視野を広げることを目的とした研修です。

令和7年度は、令和8年3月25日（水）～28日（土）の3泊4日、東京都・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。全国から集まった中学生が、さまざまな活動や交流を通して、仲間と協力することの大切さや、多様な考え方に触れる貴重な4日間を過ごしました。長野県から参加した、及川宗助さんの感想をご紹介します。



「研修を通して得たもの」

飯田市立竜峡中学校 及川 宗助

僕はこの研修に参加させていただくことができ本当に良かったと思っています。最高の環境で最高の学びをし、最高の仲間と出会うことができました。そんな研修の中で特に学んだことは「対話の重要性」です。4日間の研修を今振り返り、対話によって得られたことがたくさんあります。その一つは、対話を通して相手の性格や人となり等の理解が進み、仲が深まったこと

です。寝食を共にし、様々なことを話していくうちに相手の興味や関心、物事に対する考え方等を知ることができました。また、対話でしか得られないこととして、話者の方言や言葉の特徴がありました。最初は全国各地の様々な方言が飛び交うことに驚きましたが、徐々にその方言がその人を表す魅力に感じ、心が近づいていく自分がいました。このように「初対面の人」から「仲間」へと変わった、最短で最高の手段こそが対話の力だと考えています。

二つ目は、対話を通して新たな考えが生まれたことです。このことは特にYCAPの活動で感じました。YCAPでは、自分一人では不可能と思っていたことも、仲間と話し合い、みんなで考えを共有することで不可能を可能にすることができました。それぞれがもつ自分の考えを自分の中だけで終わらせずに、対話によって共有し、異なる意見がかけ算され、結果、自分一人ではたどり着けない答えに行き着くことができました。改めて対話の力と、そして楽しさを感じた活動になりました。

今の世の中は近くの人とも遠くの人とも、世界中インターネットを使ってつながることができますが、上記のような対話の重要性を学ぶことや人と人が深い関係になることは、実際に顔と顔を合わせることは及びません。今回の三泊四日の研修を通して、同世代の仲間の多様な考えに触れ、自分の視野が広がり、新たな価値観をもつことができました。そして、かけがえのないたくさんの仲間ができました。今後この最高の仲間とともに、これからの日本をより良くするために活動していきたいと強く思っています。



※参加者のプライバシー保護のため、写真の一部にぼかし加工を施しています。

